

日本ルワンダ学生会議  
第 17 回本会議 活動報告書

2018 年 8 月 15 日（水）～8 月 22 日（水）



## はじめに

「日本ルワンダ学生会議 第17回本会議 活動報告書」を手にとってくださり、ありがとうございます。この報告書を通じて、皆様に、日本ルワンダ学生会議の今夏の活動を報告できることを大変嬉しく思っております。本書は、2017年8月15日から8月22日の間、ルワンダ人学生4名を日本に招致し、ルワンダ人学生と共に行った事業「第17回本会議日本招致事業」の活動内容をまとめたものです。

今回の招致では、「平和」をひとつのテーマに据えました。第二次世界大戦、急速な復興を遂げた日本と、1994年のジェノサイド後、ハイペースな経済成長を続けているルワンダが重なったからです。しかし、今回はこのような光の面よりも、影の面に注目するように心がけました。この試みの一つとして、靖国神社と在日韓国人歴史資料館に訪問しました。この二つの場所を選んだ理由は、戦中、戦後史がどのように描かれているか、その差をルワンダ人学生に感じてほしかったからです。

彼らは日本を復興の成功例として捉えている節があります。確かに、ルワンダが日本から学べる点が多いでしょう。その一方で、日本にもまだ「本当の意味での戦後処理」という大きな課題が残っています。特に在日韓国人の問題等、他民族と友好的関係が築けているとは言えません。日本はルワンダのモデルという側面だけでなく、同じ民族問題を抱えている、共通の問題に対処する仲間という側面もあるといことを伝えなかったのです。

その他にも、今回は日本の技術、文化等、様々なことに触れる機会に恵まれました。それらについても、この報告書の中で言及させていただきます。

最後となりましたが、本事業は多くの方々のご協力とご支援なくしては実現することができませんでした。皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

本書が、ルワンダへの理解、異文化への理解の一助となって頂けましたら、幸いです。

2018年9月  
日本ルワンダ学生会議 メンバー一同

## 代表者挨拶

まず初めに、日本ルワンダ学生会議第17回本会議ルワンダ渡航を開催するにあたりましてご支援・ご協力を頂きました皆さまにこの場を借りて改めて御礼申し上げます。第17回本会議では、全てのルワンダ人メンバーが初めて日本の地を踏むことになりました。不慣れなこと、知らないことも多く直前まで慌ただしい日々が続きました。そのような中、こうして大きなトラブルもなく無事に第17回本会議を終え、皆さまへこの本会議で得た学びをお伝えできますことをとても嬉しく思います。日本ルワンダ学生会議、そしてルワンダ人学生招致に関してご支援、ご声援頂き有難うございました。

私は、今回ルワンダ人メンバーをホームステイさせたことが最も印象に残っております。様々な文化の違いがあり、戸惑うことも多くありました。例えば、シャワーを浴びた後、使ったタオルは籠の中に入れておくように言ってあったのですが、全員分のタオルがごみ箱に入っているのを見つけたときは驚きました。ルワンダでは、使ったタオルを捨てる習慣もあるようです。このような困難を乗り越えてこそ、当団体の最終目標である「相互理解」に繋がると思います。今回の招致でそれを達成できたかどうかということは、分かりませんが、きっと将来役に立つと信じています。

日本ルワンダ学生会議 代表  
海老原 峻

# 日本ルワンダ学生会議 団体紹介

## JAPAN-RWANDA YOUTH COOPERATION



### 日本ルワンダ学生会議とは？

日本ルワンダ会議（JAPAN-RWANDA YOUTH COOPERATION）は、「相互理解」を活動理念に掲げてルワンダの学生と学術・文化交流を行う学生団体である。ルワンダへの渡航や、ルワンダ側の学生の日本への招致を通して、異なる背景を持つ彼らと顔の見える関係を築けるよう模索している。日本人同士でも分かり合うことは容易なことではないが、日々試行錯誤しながら活動している。

### 主な活動内容

- 本会議の実施（日本人のルワンダ渡航事業、ルワンダ人の日本招致事業を交互に実施）
- 週1回の定例ミーティングの開催
- 日本とルワンダに関する勉強会
- 講演会や出張授業の実施
- 活動報告書の開催や報告書の作成
- 各種イベントへの参加による周知活動

### 構成人数

日本側メンバー6名(招致参加者3名)、ルワンダ側メンバー19名

### 活動理念

我々は「相互理解」を活動理念に掲げ日々活動している。

虐殺が行われた協会の壁に掛けられている1枚の布には、次のような言葉が書かれている。「あなたが私を知っていたら、あなたがあなた自身を知っていたなら、こんなことは起きなかつただろう」

我々の活動は、相手を知り、また自分たちを知ってもらうという、とても地道なものである。しかし、1994年に大虐殺を経験したルワンダにとって、偏見を捨てた相互理解は大きな意味を持つ。また、我々にとってもかの悲劇から目を背けてしまったという自責の念に対する少しでも反省として、このアプローチは意味のあるものだと思っている。

しかしこの相互理解という活動は、決して紛争や貧困などの社会問題ありきで行うべきものではないだろう。国際協力において、先進国が一方的に「問題解決のために支援する」形を取っているのは、先進国への依存関係が築かれてしまい、かえって発展が阻害される可能性がある。よって、その国の自立を促すためにもその社会問題解決をともに行える「仲間」が必要なのである。そしてこの「仲間作り」に必要なことが、まさに相互理解であると認識している。

我々は実際に現地で暮らす人々と交流する中で彼らの価値観や人生の物語に触れることで、相互理解、また信頼関係を構築することを目的としている。そうすることによって我々も、ルワンダの“Never again”に対して当事者意識を持つことができ、「自由・平等・尊厳・寛容」の視点から真に平和な社会を構築することのできると考えるからである。

近年頻発する国際紛争の共通課題として宗教や民族対立がある。現にルワンダにおける植民地政策や虐殺のプロパガンダも人々に「憎しみ」、「差別」、「偏見」の考えをもたらしてしまった。よって、差別や偏見の撤廃こそが、平和な社会への第一歩だと考えている。ルワンダの悲劇に立ち向かうのに必要な仲間作りのために、我々は学生会議という形を通して相互理解を育んでいく。そして会議では日本とルワンダの両国の歴史や社会問題を議論し、互いに意見を言い合うことで双方を理解するよう努める。このような活動を通して我々は日本とルワンダに限らない人類の共通課題に向き合っていく。

## 活動理念の継承

当団体は活動理念を継承していき、学生会議としての継続性、発展を確保する。

ユネスコ憲章には以下のような文言がある。

「相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信を起こした共通の原因であり、この疑惑と不信のために、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。ここに終わりを告げた恐るべき大戦争は、人間の尊厳・平等・相互の尊重という民主主義の原理を否認し、これらの原理の代わりに、無知と偏見を通じて人間と人種の不平等という教義をひろめることによって可能にされた戦争であった。文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育とは、人間の尊厳に欠くことのできないものであり、かつすべての国民が相互の援助および相互の関心の精神をもって果たされなければならない神聖な義務である。」

ルワンダでは、相互の援助や関心の精神が広く行き渡っていなかったことで、民族対立が虐殺という悲惨な形で結果に表れてしまった。我々の活動は日本やルワンダに対する偏見を取り除き、寛容な人間関係を築くことが恒常的な平和を構築するという視点から、学生会議を通じた交流を行っている。実際に日本とルワンダの学生が「相互の風習と生活」を知ることによって、遠く離れている国同士でも信頼関係を築けると思っている。そして、この根本となっている「相互理解」という活動理念は、学生会議を継続的に行うことによって継承されていき、また新規メンバーにはこれに同意していただくものとしている。

## 略歴

2005年10月	早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(WAVOC)が主催するスタディーツアーの形でルワンダ・プロジェクトがスタート
2008年9月	ルワンダにて第1回本会議を開催
2009年3月	団体名を「ルワンダ・プロジェクト」
2009年9月	ルワンダにて第2回本会議を開催
2009年12月	日本にて第3回本会議を開催
2010年1月	日本ルワンダ学生会議関西支部発足
2010年8月	ルワンダにて第4回本会議を開催
2010年12月	日本にて第5回本会議を開催
2011年8月	ルワンダにて第6回本会議を開催
2011年12月	日本にて第7回本会議を開催
2012年8月	日本にて第8回本会議を開催
2013年2月	ルワンダにて第9回本会議を開催
2013年12月	日本にて第10回本会議を開催
2014年8月	ルワンダにて第11回本会議を開催
2015年1月	日本にて第12回本会議を開催
2015年8月	日本にて第13回本会議を開催
2016年2月	ルワンダにて第14回本会議を開催
2016年8月	日本にて第15回本会議を開催
2017年8月	ルワンダにて第16回本会議を開催
2018年8月	日本にて第17回本会議を開催

2005年に早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター客員教授の小峯茂嗣氏が設立した「ルワンダ・プロジェクト」が母体となり、2008年から学生が主体の運営を始めた。以後、日本とルワンダの間の学生交流を中心に精力的に活動している。

## 公認

- 在日本ルワンダ共和国大使館
- アフリカ平和再建委員会（ARC）事務局長 小峯茂嗣氏

## 日本側メンバー

西野由花 青山学院大学国際政治経済学部 4年  
海老原峻 青山学院大学国際政治経済学部 3年  
眞鍋悠眸子 青山学院大学法学部法学部 4年  
原一生 早稲田大学政治経済学部 3年  
後藤聡子 早稲田大学政治経済学部 2年  
山本峰丸 大阪大学外国語学部 1年

## ルワンダ側メンバー（以下全員ルワンダ国立大学）

Lucky BARAHEBUZA  
Léandre BERWA  
Consolatrice BYRINGIRO  
Titi HAVUGANA  
Gloria IGIRANEZA  
Daniel IGIRIMBABAZI  
Peace Diane ISHIMWE  
Louise MAHIRWE  
Philemon MUGISHA  
Jean Pierre MUHIRWA  
Fred NGABO  
Noella NGOGA  
Josué NIYOMUTABAZI  
Nadia NIYONIZEYE  
Blaise Pascal SHYAKA  
Florence UMUHOZA  
Gloria UWAMAHORO  
Charles UWAMBAJIMANA  
Vanessa UWASE

## 連絡先

メールアドレス：[japan.rwanda@gmail.com](mailto:japan.rwanda@gmail.com)  
ホームページ：[jp-rw.jimbo.com/](http://jp-rw.jimbo.com/)  
フェイスブック：[@日本ルワンダ学生会議](#)  
インスタグラム：[japan.rwanda](#)

# ルワンダ共和国情報

## ABOUT RWANDA

### ルワンダ共和国基礎情報



ルワンダ共和国は、アフリカ大陸中部部に位置する小さな内陸国である。

「千の丘の国」と称するほど自然豊かな国であり、治安も良く、ビジネスがしやすい国として知られている。

- 首都：キガリ
- 人口：約 1,210 万人（2014、世界銀行）
- 面積：2.63 万km<sup>2</sup>
- 言語：ルワンダ語、英語、フランス語、スワヒリ語
- 宗教：キリスト教（カトリック、プロテスタント）、イスラム教
- 民族：フツ、ツチ、トゥワ

### 略史

年月	略史
17 世紀	ルワンダ王国成立
1890 年	ドイツ保護領（第一次世界大戦後はベルギーの信託統治領）
1961 年	王政に関する国民投票（共和制樹立を承認） 議会在カイバンダを大統領に提出
1962 年	ベルギーより独立
1973 年	クーデター（ハビヤリマナ少将が大統領就任）
1990 年 10 月	ルワンダ愛国戦線（RPF）による北部侵攻
1993 年 8 月	アルーシャ和平合意
1994 年 4 月	ハビヤリマナ大統領暗殺事件をきっかけに「ルワンダ大虐殺」発生 （～1994 年 6 月）
1994 年 7 月	ルワンダ愛国戦線（RPF）が全土を完全制圧 新政権樹立（ビジムング大統領、カガメ副大統領就任）
2000 年 3 月	ビジムング大統領辞任
2000 年 4 月	カガメ副大統領が大統領に就任
2003 年 8 月	複数候補者による初の大統領選挙でカガメ大統領当選
2003 年 9-10 月	上院・下院議員選挙
2008 年 9 月	下院議員選挙（与党 RPF の勝利）
2010 年 8 月	カガメ大統領再選
2013 年 9 月	下院議員選挙（与党 RPF の勝利）
2017 年 8 月	カガメ大統領再選

## 政治体制・内政

- 元首：ポール・カガメ大統領（H.E. Mr. Paul KAGAME）
- 政体：共和制
- 議会：上院（26 議席、任期 8 年）、下院（80 議席、任期 5 年）
- 政府：首相 アナスターズ・ムレケジ（Rt. Hon. Anastase MUREKEZI）  
外相 ルイーズ・ムシキワボ（Hon. Louise MUSHIKIWABO）
- 内政

1962 年の独立以前より、フツ（全人口の 85%）とツチ（同 14%）の抗争が繰り返されていたが、独立後多数派のフツが政権を掌握し、少数派のツチを迫害する事件が度々発生していた。1990 年に独立前後からウガンダに避難していたツチが主体のルワンダ愛国戦線がルワンダに武力侵攻し、フツ政権との間で内戦が勃発した。1993 年 8 月にアルーシャ和平合意が成立し、右合意を受け、国連は停戦監視を任務とする「国連ルワンダ支援団（UNAMIR）」を派遣したが、1994 年 4 月のハビヤリマナ大統領暗殺を契機に、フツ過激派によるツチ及びフツ穏健派の大虐殺が始まり、同年 7 月までの 3 ヶ月間に犠牲者は 80~100 万人に達した。

1994 年 7 月、ルワンダ愛国戦線がフツ過激派を武力で打倒すると、ビジムング大統領（フツ）、カガメ副大統領（ツチ）による新政権が成立。同政権は大虐殺の爪痕を乗り越えようと、出身部族を示す身分証明書の廃止（1994 年）、遺産相続制度改革（女性の遺産相続を許可）（1999 年）、国民和解委員会及び国民事件委員会の設置（1999 年）等、国民融和・和解のための努力を行っている。

1999 年 3 月には、1994 年の虐殺以降初めての選挙となる地区レベル選挙（市町村レベルより下位）を実施、2001 年 3 月には市町村レベル選挙を実施、2003 年 8 月には大統領選挙が実施されカガメ大統領が当選。以後行われた上院（2003 年、2011 年）・下院議員（2003 年、2008 年、2013 年）選挙の全てで、与党 RPF が勝利した。

2000 年、中長期的国家開発計画である VISION2020 を発表、2020 年までに中所得国への転換をめざし、「知識集約型経済の実現」などを掲げた。

カガメ大統領（2010 年の大統領選挙で再選）は汚職対策に力を入れており、他のアフリカ諸国に比して、汚職の少なさ、治安の良さは特筆される。なお、ルワンダは女性が国会議員に占める割合が 57.5% で世界一（2014 年 10 月現在）。上院副議長、下院議長の要職を女性が占め、女性閣僚の割合は約 26% と、女性の社会進出が進んでいる。

2007 年には、ルワンダ独自の成長戦略である第二次経済開発貧困削減戦略（EDPRS II）を発表し、最近の国家予算では、経済構造改革、農村開発、若年層雇用創出、公的説明責任といった分野に予算が重点的に配分されている。とりわけ経済構造改革を最重要分野としている。

2015 年 8 月、憲法改正を実施するための憲法審査委員会設立法案が採択に付され、上、下両院議会を通過し、同法は成立した。これにより、大統領三選を禁止する憲法第 101 条の改正への動きが加速化すると見られている。

2015 年 4 月に入って、隣国ブルンジの情勢が悪化したことにより、ブルンジ難民の流入が続いており、ルワンダ国内のブルンジ難民は、6.8 万人（2015 年 7 月現在）に達している。



## 経済

- 主要産業：農業（コーヒー、紅茶等）
- GDP：82.7 億ドル（2015 年、世界銀行）
- 1 人当たり GNI：732 米ドル（2015 年、IMF）
- 経済成長率：6.9%（2015 年、世界銀行）
- 物価上昇率：4.5%（2015 年、IMF）
- 総貿易額（2014 年、EIU）：輸出 7.23 億ドル  
輸入 19.9 億ドル
- 主要貿易品名（2014 年、EIU）：輸出 コルタン、絹、茶、コーヒー  
輸入 消費財、中間財、資本財、エネルギー
- 主要貿易相手国（2014 年）：輸出 中国、コンゴ民主共和国、マレーシア、タイ  
輸入 ウガンダ、ケニア、インド、中国
- 通貨：ルワンダ・フラン

## 二国関係

- 政治関係
  - (1) 日本は、ルワンダが独立した 1962 年 7 月に国家承認。2009 年末まで在ケニア日本大使館がルワンダを兼轄していたが、2010 年 1 月に在ルワンダ日本大使館開館。ルワンダは 1979 年 5 月に在京大使館を開設。2000 年 9 月に閉鎖したが、2005 年 1 月に再開。
  - (2) 1994 年 4～6 月のルワンダ大虐殺により国外に避難したルワンダ難民を救援するため、日本は、同年 9～12 月の間、国際平和協力法に基づき、ザイール共和国（当時、現コンゴ民主共和国）のゴマ等に約 400 名の難民救援隊・空輸隊等を派遣した。
- 経済関係（対日貿易）（2014 年、財務省）
  - (1) 貿易額
    - 輸出 1 億 8,877 万円
    - 輸入 15 億 7,837 万円
  - (2) 主要品目
    - 輸出 コーヒー、雑貨
    - 輸入 自動車、二輪、医療関連機械

（以上、外務省ホームページより引用）

第 17 回本会議 活動報告  
ABOUT THE 17<sup>th</sup> CONFERENCE

第 17 回本会議スケジュール

実施日	行程
8 月 15 日	ルワンダ人、日本に到着
8 月 16 日	犬吠埼 学生会議
8 月 17 日	学生会議 靖国神社 在日韓国人歴史資料館
8 月 18 日	浅草寺 国立科学博物館
8 月 19 日	学生会議 小石川植物園 TEPIA 先端技術館
8 月 20 日	築地本願寺・築地市場 歌舞伎
8 月 21 日	学生会議 ルワンダ大使館
8 月 22 日	ルワンダ人、帰国

## 17 回本会議所感

青山学院大学 3 年 海老原峻

### プレゼン①『在日朝鮮人の国籍から見る日韓関係』

#### ●プレゼンの内容

韓国併合、日本の敗戦、朝鮮戦争を経て、かつて日本の占領下にあった朝鮮人の国籍がどう変わっていったかということについて触れた。また、朝鮮人学校を初めとする在日朝鮮人にまつわる論争や、従軍慰安婦問題、領土問題などといった日韓間の国際問題についても言及した。

#### ●ディスカッションの内容

テーマは「在日朝鮮人の問題を念頭に置いて、日韓関係を改善するために何ができるか」にした。ルワンダ人学生の意見をまとめると、「在日朝鮮人の問題に関しては対話に臨む姿勢が、慰安婦問題と領土問題に関しては真実を話す勇気が、必要である」ということであった。

#### ●プレゼンの感想

このディスカッションテーマは、ルワンダ人学生が相手であることを考慮した結果、選んだものである。1962年の独立から20世紀末まで民族紛争に苦しめられてきたルワンダ人であるからこそ、引き出すことができる意見があるのではないかと期待したのだ。彼らは、何よりもまず関係を改善するためには対話が欠かせないと繰り返した。そこには、ジェノサイド後のガチャチャ裁判(真実を告白し、罪を懺悔すれば刑罰が軽くなるというシステムを導入した簡易裁判)が国家の再建という点において、一定の効果を発揮したという経験があるのだろう。

無論、制度を日韓関係に応用することは一考の価値はあるだろうが、その応用は非常に困難になることは否定できない。なぜなら、ルワンダと日韓の状況は大きく異なるからだ。ルワンダの民族紛争は内戦であった。さらに、加害者とされるツツ族が人口の85%を占めている以上、加害者全員を正式な裁判にかけて罰することは、物理的にも不可能であるし、国家再建の面から見ても生産的とは言えない。こうした事情があって、ルワンダではガチャチャ裁判が妥協案として採用されたのだ。

一方、日韓関係に関する問題は内戦ではなく、どちらかというとい国際紛争であるから、解決しなかったところで日本と韓国という国がつぶれることはないのだ。すなわち、当時のルワンダと比較すると状況があまり切迫していないのだ。これでは、進んで真実を告白する者は出てきにくいだろう。このように、日韓関係を改善するための妙案は出なかったわけであるが、民族問題というセンシティブな話題をルワンダ人学生と議論できたことは有益であったように思う。また困難であるとは言え、対話と告白を主張する当事者からの意見は重みがあり、日韓関係を再考する上でもヒントになるかもしれないと思った。

## プレゼン②『大日本帝国と靖国神社』

### ●プレゼンの概要

1910年の韓国併合から満州事変、真珠湾攻撃、原爆投下などを経て、1945年の日本の敗戦までを簡単に振り返った。こうした歴史を踏まえて、靖国神社が持つ意味と、首相の靖国参拝などの論争について触れた。

### ●ディスカッションの概要

テーマは、「首相が靖国神社を参拝することをどう思うか」であった。ルワンダ人メンバーは全員「問題がない」との旨、意見を述べた。理由は過去の人物に思いを馳せるのは、個人の自由であるからということであった。何人かの首相が、個人としてではなく、日本の首相という立場で参拝してきたことや、大戦中の日本の行為が決して褒められたものでないことを再確認しても、彼らの意見は変わらなかった。国内でも議論になっていることに触れると、「同じ日本人なのに、先祖に対して抱く感情が異なることが不思議だ」とあるルワンダ人学生が言った。ルワンダでは、悪事をはたらいた先祖に対しても敬意を示すのはごく当たり前であるとのことであった。

### ●プレゼンの感想

まず、ルワンダ人学生がこのプレゼンで紹介した日本の歴史をよく知っていることに驚いた。原爆投下や敗戦の他にも、日米交渉などの日本の学生でも詳しくは知らないような歴史にも精通していた。日本でいう中学校と高校の時に世界史の授業で習ったという。遠くアフリカの国において、日本の存在が決して小さくないことを実感することができた。

ディスカッションでは有意義な議論ができたと思う。首相の靖国神社参拝という、国内や中国、韓国といった一部の諸外国との間で議論されることの多いトピックを、それらの国以外の国の人と話せたことは良い経験になった。

私は、ディスカッションが活発になるように、あえて意見が割れそうなトピックを選んだつもりであったが、全員が肯定的な意見を表明するという予想外の事態となった。その理由の一つとして、私はここにも一種の歴史認識の差があるのではないかと考える。ルワンダ人学生は客観的な史実に関しては十分な知見を有しているが、当事者として日本の歴史を主観的に捉えることは出来ないのだ。また、方を変えれば、中国や韓国のように大戦中における日本との関係が深くなかったため、非常に冷静にその歴史を捉えることが出来ている、とも言えるだろう。

国籍を始めとする歴史的背景によって、同じ歴史に対して持つ印象が大きく異なることを改めて実感することができたプレゼンであった。

## 本会議を振り返って

### ●ルワンダ人がいる暮らしーホームステイという経験

ルワンダ人学生を日本に招くということで、ビザの手続きから食事する場所の予約など、大変なこともたくさんあったが、メンバーや関係者の方々からのご協力もあり、なんとか無事に終えることができた。重ねてお礼申し上げたい。

特に大変だったのは、ルワンダ人学生を自身の家に泊めたことである。日本人の友人を泊めたことすらほとんどなかった中で、ルワンダ人の友人を泊めるということは想像以上に困難であった。例えば、「食」には特に気を使った。毎日、朝食は家を出していたのだが、初日は白いご飯、お味噌汁、焼き魚、などといった、典型的な日本食にした。目新しいこともあってのことだろうが、喜んでくれた。しかし3日目あたりから、徐々に残すことが増えたので、パンやサラダ等のルワンダ人になじみのある洋食にしたところ、完食するようになった。やはり普段から食べているものがないのかと思いつつ、同時に、気を遣って「洋食にしてほしい」と言い出せないルワンダ人と我々日本人が重なり、少し可笑しかった。

このように、ホームステイでルワンダ人学生が快適に過ごせるように、気をもむことも多かったが、一緒に過ごす時間が多かったことで親交もその分深まったように思う。必ずしもそのお陰ということではないが、彼らにとって非常にセンシティブな話題であるジェノサイドについて話すことも出来た。

### ●ルワンダの平和—ジェノサイドをどう捉えるか

ルワンダ人が「ジェノサイド」のことについて言及する時に、必ず“jenocide yakorewe abatusi”、すなわち「ツチ族に対するジェノサイド」と言っていることに気が付いた。我々日本人を含め、ルワンダ人以外の国の人間は、単に「ジェノサイド」と言うのに、なぜわざわざ「ツチ族に対する」という言葉を付けるのか、と聞いてみた。すると、「ジェノサイドの被害者がツチ族だから、それを忘れないようにするためだ」という答えが返って来た。

確かに、ジェノサイドの被害者にツチ族が多かったのは事実ではあるが、一部のフツ族も犠牲になっている、というのが国際的なコンセンサスであり、自分もそう思っている。そこで、このことも聞いてみたが、「ジェノサイドの被害者はツチ族であって、フツ族ではない」と言って譲らなかった。普段は穏やかな彼らだが、この時ばかりは口調がきつかったので、印象に残っている。

自分はここに、現代のルワンダの問題が息をひそめているように思う。つまり、1994年のいわゆる「ルワンダン・ジェノサイド」以降、ルワンダは民族間の和解と急速な経済発展を遂げ、アフリカの奇跡と呼ばれるまでに至った。しかし、数世紀に渡って続いてきた根深い民族対立を、ここ20数年で片付けることは無理があるだろう。それをしようとしているのが、現職のポール＝カガメ大統領ではないだろうか。大統領に対する意見は大きく分かれるが、独裁者という言葉で語られることもある。それはひとえに、大統領が反対意見を持つ者に容赦がないからだ。特に彼曰く“genocide denier”、すなわち「ジェノサイドを否定する人々」は悉く、不審死を遂げたり、亡命を余儀なくされたりしてきた。大統領は「フツ族が加害者でツチ族が被害者」というジェノサイド像を確立することで、1987年から1994年までの自身の反政府活動を、民族—特にツチ族—を解放する為の戦争として正当化、ないし神聖化しようとしているのだ。

既述の通り、カガメ大統領の強いリーダーシップが、ルワンダを紛争の瓦礫の中から引き揚げたのは事実であるし、大いに評価されるべきである。しかし、自分にとって都合の悪い者を排除するような政権運営の方法は褒められてものではないし、いつかルワンダを再び民族紛争の深淵へ突き落としかねない。

### ●ルワンダの課題—当団体は何ができるか

では今後、ルワンダはどのような道を歩むべきであろうか。それは何を差し置いても、「真の意味での民族和解」であるだろう。すなわち、自分が「何族」なのか尋ねる子どもの頬を打つのではなく、優しく教え、その意味を悟ることが必要だ。民族問題をタブーにするのではなく、広く話し合えるような社会にしていかななくてはならないのだ。そうすれば、民族間の歪が生まれることもなく、持続可能な平和を達成することができるだろう。

そこで重要になってくるのが、第三者の視点である。加害者と被害者とが直接対話をする必要はあるが、それだけではお互いが感情的になり、再び紛争の惨禍が起きかねない。第三者の冷静な視点が必要なのだ。我々日本ルワンダ学生会議も、微力ながらこの役割を果たすことができると思う。つまり、ルワンダ人学生に、日本人学生の率直な意見を告げるのだ。今回の招致企画においては、踏み込んだ議論はできなかったが、ジェノサイドという長らくタブーであった話題に触れることはできた。これはルワンダ人学生と、日本に招致する前から交流があり、ある程度の親交を深めていたからこそできたことだと思う。ここに、当団体の意義がある。ルワンダ人と交流のある外国人が、どれ程いるだろうか。大使館の職員の方々等も一定数いらっしゃるだろうが、ルワンダの内政を批判するようなことを、おいそれとは言えないはずだ。この点、我々は学生という地位を存分に活かし、オープンな議論ができるのだ。

以上のような当団体の利点を発揮しつつ、ルワンダと日本との相互理解、延いてはルワンダの平和のために、今後も活動していきたいという思いを新たにすることができた。

## 日本ルワンダ学生会議 第17回本会議振り返り

青山学院大学4年 眞鍋悠眸子

まず、全体を通して見ると、ルワンダ人メンバーと学術的な問題から文化的、生活の出来事まで深く・幅広く議論する時間を持つことができたことが一番の収穫である。また、ルワンダ人メンバーが日本について学ぶだけでなく、私達日本人メンバーも、ルワンダという国の人の目を通して日本の知らない側面を知ることができた。したがって、人員・予算不足にも関わらず、ルワンダ人メンバーも、日本人メンバーも満足できた本会議であったと言える。以下、特に印象に残った内容について述べる。

### 《ホームステイ》

まず、ルワンダに渡航した際にホームステイをさせてくれたメンバーを、自分が一人暮らしする家に迎えることができたことは感慨深かった。もちろん、家に泊めてもらい、もてなしてもらった恩を返すことができたからでもあるが、それ以上に、ルワンダと日本の一般的な暮らしをお互いが学びあえたことに、真の国際交流の意義を見出せたからである。ここで、ルワンダの若者の最新の流行から、なぜ都市の若者の間でフランス語が流暢なもの、ほぼ話せないものがあるのか、若者は誰がフツ族で誰がツチ族であるのかを知っているのかなど、多くの質問に答えてもらった。言語については、私の家に滞在したメンバーは、家族とフランス語で話したり、フランスの映画で勉強したりして自分で努力したからフランス語を話せるとのことだった。最近、子どもは英語とフランス語が話せるほうがいだろうと考え、家庭でキニヤルワンダ語を話さず、これを話せない子どもが増えているという現状についても教えてくれた。また、ジェノサイドについては、彼女の母は「私たちはルワンダ人だから、そんなものは関係ない」と言って、メンバーが何度聞いても自分の家族がフツかツチか教えてもらえなかったと言った。それは、彼女の母の強い信念によるものであり、これがルワンダの奇跡的な復興の鍵であったのだらうと想像できた。ジェノサイドについては、どの程度話を深掘りしていいか慎重になっていたことがあったため、真摯に、また率直に答えてもらえたことは、真の相互理解につながるきっかけであったと確信する。

### 《築地本願寺》

個人的に最も興味深かった場所が築地本願寺である。外見はタージマハルのようなインド様式であり、動物の飾りが施されていること。日本の寺にもかかわらず、西洋風に土足で、椅子が設備されていること。天井からシャンデリアのような電気が吊り下げられていること。柱には、中国の神であり、方角を示す動物が彫られていること。パイプオルガンが導入されていることなど、挙げるときりがないほどの異国文化の融合に感銘を受けた。外国人観光客向けのみではなく、日本人こそがここを訪れ、伊東忠太という人物について知るべきだと思った。また、そこで実際に法要を行うところを見ることができた。

### 《在日韓国人歴史資料館》

月並みではあるが、ルワンダ人メンバーに資料を説明しながら自分が知らなかったことを多く学び、恥ずかしく思った。これは、日本人メンバーで行う勉強会の際に、ルワンダのこのみではなく、日本の歴史を学ぶことを組み込むべきだと考えた。自分の国を知って初めて、相手の国を理解することになると思う。

また、日本の歴史施設の英語資料の不足を、身をもって感じた。個々の資料を英語に訳して伝えることは日本人メンバーにとって楽なことではなかったが、ルワンダ人メンバーの積極的な学びに応えるために、全力を尽くすことはできたと思う。加えて、当時の日本政府による在日韓国人に対する差別的な法制度などを年表で細かく学ぶことができたことも良かった。ここに、ジェノサイド後ツチ族とフツ族の和解ができたルワンダと、未だに在日韓国・朝鮮人差別を引きずる日本との違いが見えた。

《本会議を通して見えたこと》

ルワンダ人にとって、飛行機に乗り、海を越え、日本という国に来ることがどれだけ大きなことを理解した。それは、メンバーが大量にチョコレートを買うところを見て、なぜそんなに必要なのか聞いたところ、「日本に行く自分は村のヒーローだから、子どもたちみんなにお土産をあげたいんだ」と言っていた。ここに、コミュニティの意識の強さ、またルワンダの人が日本をどう思っているのかが想像できる。一方で、やはり物価の違いも実感した。

また、住み慣れたと思っていた東京の大きさも実感することができた。本会議を通して毎日複数の施設を訪れ、たくさんの移動をし、ルワンダ人メンバーはもちろん、日本人メンバーにもかなりの疲労があった。しかし、私達がルワンダへ渡航した際も同様の疲労感と、それゆえの達成感もあったため、密な内容の本会議はこのまま続けていきたいと考えた。

さらに、施設の英語説明の不足が多くあり、苦勞した。これから 2020 年のオリンピックもあり、外国人観光客がより増えていく中で、せつかく日本の文化を伝えられる機会を言語の壁によって失うことはあまりにももったいないと思う。これは日本の大きな課題であるし、各施設が改善することを望む。

これからも、この団体を通して日本人が日本を外からの目でも見られるように、団体の継続と発展により一層の努力をしようと思う。



## 第 17 回本会議 プレゼンテーションと感想

大阪大学 1 年 山本 峰丸

### ・プレゼンテーションのテーマ

Rethinking Japan: Weaknesses of Japan in the Global World

### ・プレゼンテーションの内容

グローバル社会における日本の弱点を経済、防衛、外交の観点から、紹介した。まず、経済面では、現在、アベノミクスと呼ばれる経済政策が採られている。政府は就業者数や国の税収、名目 GDP などの数値を用いて、成果をアピールしている一方で、物価上昇率 2% の目標を達成できておらず、大企業のみ之恩恵が行っている、と云う批判もある。そして、将来的なリスクとしては、少子高齢化・人口減少による経済縮小の可能性が挙げられている。対策としては、移民の受け入れや、社会の構造改革・効率化、AI の活用などが現在実施されている。しかし、それに加えて、世界各地の途上国への技術輸出を加速して、途上国と互惠関係を築くことが、長期的に非常に重要だと私は考えている。

次に、軍事の面について。自衛隊の戦闘能力は、Global Fire と云う世界各国の軍事力をランク付けする会社によると、世界第 8 位だと評価されている。しかし、サイバー能力の低さが他国と比較して、大きな弱点となっている。例えば、米国や中国、ロシアは 2010 年以前にサイバー軍を設立し、自国政府と企業の機密情報を守ったり、他国の企業や政府に攻撃を仕掛けたりしている。一方、日本は 4 年前に、自衛隊内にサイバー防衛隊が出来たばかりで、現状わずか 110 人の職員が、サイバー関係の情報収集に当たっているだけである。2020 年までに、人員を 1000 人にまで増員し、強化する予定とはなっているが、他国との協議を進め、サイバーに関する国際ルールを整備する事も欠かせない。

外交に関しては、安倍首相が、多くの国々の首脳と良好な信頼関係を築いてきた。しかし、韓国・北朝鮮・中国との外交関係は常時良好ではないので、粘り強い交渉によって、アジア近隣諸国とも友好関係を深める事が必要だ。最後に、グローバル社会において、日本の現在の国際的な位置・権力を維持する為には、経済・防衛・外交の面で、弱点を補う改革・改善が欠かせない、と結論づけた。

### ・ディスカッションの内容

ルワンダの Philemon 君から、日本の外交について提案を受けた。現在、アフリカでは、EU を見習って、国境を超えた協力が政治・経済面で加速しているので、日本も、近隣諸国と、EU のような協定を結んだらどうか、と云う提案だった。私は、日本と他の東アジア諸国では、経済格差も社会の仕組みも違いが大き過ぎるので現実的ではない、と返答した。しかし、アフリカで、EU を模範としたボーダレス化が進み、彼が民族や国民を超えた、アフリカ人としての自意識を持っている事に驚かされた。

### ・感想・意見

グローバル社会での日本の弱点と云う、抽象的なテーマを選んだ為、当初、どのような内容構成にするか迷った。結局、経済、防衛、外交の現状を広く浅く説明する事にしたので、包括的な理解をしてもらえたかなと思う。時間が更であれば、ルワンダの政経、外交の現状も詳しく聞いてみたかった。



### ・会議全体を通して ～ルワンダ人学生との交流を通じて知った、ルワンダの現状と将来性～

今回の日本ルワンダ学生会議では、人生で初めて、アフリカ人と交流する機会を得た。私は、4月から大学でスワヒリ語を専攻しているが、元々、アフリカと云えば貧困、ルワンダと云えば内戦、と云う非常に曖昧で偏った先入観しか持っていなかった。しかし、今回、ルワンダ人学生との交流を経て、ルワンダがどんなに面白い国で、日本とどのような関係性を持ち、将来どのような国になっているのか、と云う事が、具体的に想像がつくようになった。

例えば、ルワンダ人学生らとのディスカッションや雑談を通して分かった、ルワンダやルワンダ人学生の生活の断片的な情報は、以下のようなものである。

- ・国内に鉄道が通っていない。しかし、山がちな国であり、かつ、整備されていないデコボコ道が多いと云う理由ゆえに、自転車はほぼ使えない・使わない。
- ・高層ビルは少なく、エスカレーターも首都キガリのデパートぐらいにしか設置されていない。
- ・国内トップの国立大学であるルワンダ国立大学においても、9割の学生が、学費を返済必要奨学金に頼っており、大学卒業後、奨学金の返済を強いられている。
- ・国営企業、機関以外は良い就職先がほぼ無いので、学生は、卒業後、よく起業したりする。
- ・地方出身のルワンダ国立大学の学生は、日本同様、一人暮らしや寮生活をしている。
- ・2008年に、教育言語が仏語から英語に変わった為、今回来日した4人は全員英仏両方話せる。
- ・英数国理社を含む、大学入試試験を経て、ルワンダ国立大学に入学した。
- ・中国製の格安スマホを持ち、Youtubeアプリを使って、アフリカ音楽やアメリカ音楽を聞く。
- ・ルワンダには「博物館」と云えば、自然科学の博物館しかなく、ジェノサイド記念館以外、歴史博物館は無い。
- ・カガメ大統領と云う大統領が約20年間に渡って、安定した政治を行っており、今回渡航したルワンダ人学生4人全員を含む95%くらいの国民が彼の政治を全面的に支持している。

などなど、ルワンダ社会や学生生活の具体的な状況を直接聞いたのは非常に面白かった。インフラ面では、日本との違いが大きいものの、以外と、学生生活は、近いところが多いな、と感じた。

また、ルワンダにおける、日本・日本企業の影響力を知る事も出来た。Philemon君に、知っている日本企業を企業を挙げてもらったところ、トヨタ、スズキ、ソニー、三菱、キヤノン、ニコン、東芝、富士通、日本工営、コーエイリサーチ&コンサルティング、アドバンスドマテリアルジャパンなどが上がった。中でも、トヨタはルワンダで最も有名な国際企業であり、ルワンダ国内の車の8割は、トヨタの中古車であるらしい。それゆえ、彼曰く、日本のイメージと言えば工業国であり、特に自動車や電子機器関係が強い、と云う印象を持っているそうだ。また、暗記力の強い彼は、日本滞在中に、サッポロビール、JR 東日本、セブンイレブン、大創産業を、新たに覚えたいらしい。しかし、その一方で、P君は、日本のソフトパワー、所謂アニメ等の文化については全く知らないようであり、あまり興味もないようだった。日本は失われた20年の間に、技術力が停滞し、国際的な立場も弱くなってきていると云う論も一部では囁かれているが、まだまだ日本の技術力は世界中で信頼されているのだな、と嬉しく感じた。

更に、会議の事前リサーチで得た情報や、雑談を通じて得たルワンダの状況は、日本と非常に似ている点が多いと感じた。

- ・山がちな小国である
- ・人口密度が高い（アフリカ55カ国中、第2位）
- ・多民族国家ではなく、国民全員が国語を話せる（ルワンダには、基本、ツチ、フツ、トゥワの3民族しかなく、ルワンダ語が話されている）

※アフリカには、一国内に、少数民族が何百もいて、多数の民族語が話されている、と云う民族・言語状況を持つ国家が多い。

- ・地下資源に乏しい
- ・街が清潔・衛生的である（Lucky 君によると、首都キガリは、東京よりは劣るが、アフリカで最もクリーンな街であるらしい）
- ・過去に、戦乱で国土が荒廃した（ルワンダ内戦とアジア太平洋戦争）

以上のような点で、非常にルワンダは、日本と似通った国であるが、上記の共通点のうち、私は特に、過去に戦乱で国土が荒廃した、と云う点に注目している。人種問題を火種として、内戦が起きたと云う過去がありながら、現在では、（プレゼンディスカッションの項でも前述の通り、）国民が、民族意識以上に、アフリカ人である、と云う先進的な国際意識を持っている点が、凄いと感じた。また、街が清潔・衛生的である、と云う状態も、国家の品格、精神的豊かさと強い関連性があり、ルワンダが今後、高度急成長していくポテンシャルを示す重要な指標だと思った。

現在こそ、ルワンダは、アフリカ 55 カ国の中で、経済規模的には中堅国で、地理的には内陸の小国と云う立ち位置になっている。しかし、『アフリカ進出日系企業実態調査』（日本貿易振興機構）によると、ルワンダ政府の民間への協力体制などビジネス環境、セキュリティの良さ、ICT ビジネスなどが日系企業に現在注目されているようである。以上の点から、ルワンダは、今後、IT を武器に、高度成長していき、アフリカを代表する経済国になるであろう、と云う事を、私は確信した。

このように、魅力・将来性溢れるルワンダと云う国の、フレンドリーな学生 4 人と、約 1 週間に渡って交流出来て、様々な知見を得ることが出来た。今後も、この学生会議活動を続けて、今回築いた絆を更に深めて行きたいと強く感じている。また、来年度、ルワンダに行ける機会があれば、国内の首都、地方都市、スラム街、農村など様々な場所に行って、ルワンダの社会や文化を身を以て体感してみたいと思う。



## 日本ルワンダ学生会議 参加感想文

北海道大学農学院 1年菅野厚志

「アフリカって未開の土地なんでしょ～」と思っている日本人は未だに少なくない。私はこのプログラムに参加する前に、二度ほどルワンダに訪問する機会があったのでアフリカ、とりわけルワンダという国を一般的な日本人より多少知っていた。首都キガリの中心部はそこそこ発展している IT 立国であった(プロモーションと現状に大きなギャップがある気がしたが...). 多くの日本人はこの現状に驚くだろう。一方で、ルワンダ人からみた日本はどのように映っているのだろうか。Daniel に聞くとトヨタなどの自動車メーカーやソニーといった電子機器、半導体メーカーに代表される工業国というイメージが強いらしい。やはり両国とも 20~30 年前の現状を教科書に乗せて、それを先生から教わるため国のイメージが過去のものになっているのだろう。

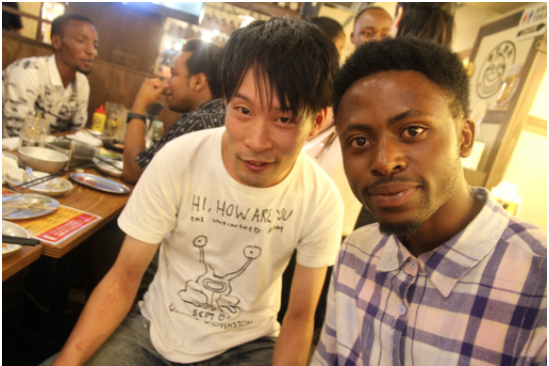
今回のプログラムは、そういった国のステレオタイプを取り除く良い国際交流の機会だったと思う。しかも無料で日本に来れるなんて。日本、今回は東京だけだったがを知ってもらえて嬉しい。

私は、二日間しか参加しなかったが、二日ともルワンダ人が日本の古い文化を感じることで時間を過ごせたのではないと思う。このような日本で外国人を案内したことは自分にとって初であり、改めて自分は日本の文化や伝統に全く興味を抱いていなかったと痛感した。歌舞伎も今回が初めてであり、本当に私は、日本人なのかと思ってしまった。今後も海外に興味があるので、こういった機会が増えるかもしれない。その際に、何かしら母国のことを紹介できるような専門性を身につけたい。

最終日に発覚したことだが、メンバーの Lucky と僕の大学での専門が少し近かった。彼の帰国後も彼と定期的に連絡を取って、研究の紹介をしている。このようにプログラム中だけでなく、終わった後も交流が続けられて嬉しい。

今回の日本ルワンダ学生会議では充実した時間をすることができた。代表の海老原くん、ゆめこさん、プログラムの参加を許可してくださり、本当に有難うございました。

下の写真は海老原パパの一眼レフに夢中になっていた Lucky が撮ったものです。良い写真！



## 日本ルワンダ学生会議 参加感想文

上智大学4年 篠原 哲

今回、日本で行われたプログラムのうち、私は2日間に参加いたしました。日本ルワンダ学生会議のメンバーとの交流は短い時間ながら、中身が濃く思い出に残る時間となりました。特に、ルワンダの学生との会話やカンファレンスを通じて、「ルワンダの学生からみた日本」と「日本の学生から見た日本」、「ルワンダの学生からみたルワンダ」と「日本の学生から見たルワンダ」をシェアできたことは非常に有意義でした。

歴史的にも目立った交流がなく、地理的にも環境が全く異なるルワンダと日本は、確かに価値観や文化の違いが大きいです。しかし、そのような違いがあるからこそ、私がルワンダへ訪問した時には多くのことを学ぶことができました。今回のプログラムでは、ルワンダの学生が日本での滞在経験をすることで、新しい価値観や文化を吸収するチャンスが非常に多くあったのではないかと感じました。

特に、海がなく生魚はおろか、魚を食べる文化の薄いルワンダと、築地で体験できる日本食文化は非常に対照的です。そこでは、日本人の食する食べ物への驚きや市場の活気を楽しむルワンダの学生とともに、改めて日本の食文化を客観的に楽しみ、日本の食文化への誇りを持つことができました。また、国民の多くがカトリック信者であるルワンダの国内ではなかなか体験のできないお寺の見学や、日本の伝統芸能である歌舞伎の観賞は、普段日本に暮らしていても私の生活とはあまりかかわることがないため、ルワンダの学生とともに新たな経験をすることができました。

今回の日本ルワンダ学生会議では充実した交流をすることができ、日々支援していただいている団体・財団・関係者の皆様には改めて御礼を申し上げます。ありがとうございました。



## 17<sup>th</sup> CONFEREVE REVIEW

### 1. Own presentation

**Name: BARAHEBUZA MURENGERA AIME LUCKY**

**Email: luckybara050@gmail.com**



#### **Content:**

In this review, I am talking about the places we visited during the 17<sup>th</sup> conference in Japan including the visit to the National Museum of Nature and Science, Japanese-Korean Historical Museum and Kabukiza play as one of the Japanese traditional culture; I request you to read carefully my review as we learned a lot during this conference and I am eagerly looking forward to share with you this experience, Only in Japan.

In addition, I am going to talk about my experience in Japan, the country of the rising sun and how I was inspired to learn Japanese language, without forgetting to tell you my presentation during the 17<sup>th</sup> conference in short as part of the learning outcome during the conference.



### 2. Places we visited

- **National Museum of Nature and Science**

During the visit to the National Museum of Nature and Science we got the opportunity to visit different sections of the museum and we learned a lot about the history of science in Japan, the Nature as we have seen a lot of animal and plant species that I have never seen before especially talking about the marine biodiversity. In addition, I have seen also the history of the Human

being in coexistence with nature as well as the History of the dinosaurs. For me, it was the first time experiencing such unforgettable experience and it was an opportunity to develop my understanding as a scientist.

- **Japanese-Korean Historical Museum**

During the visit to the Japanese-Korean Historical Museum, we learned about the international relations between Japan and other countries especially south Korea. The situation in Korea toward Japan for example taking into consideration the statue of a comfort woman in Seoul. From this, I learned that there are many conflicts and insecurities not only in African countries but also around the world, and we should focus firstly to making our world a better place by promoting peace and reconciliation and working together for the better future.

- **Kabukiza show performance**

It was my first time experiencing the Kabuki performance and it was a privilege for me and whole group in general, it is a famous play in Japan and I was surprised first by the costume and make ups as they are unique to Japan and also mentioning the dynamic stage which is really fantastic and it gives an experience that I have never seen before. Although it was played in Japanese, we had devices for translation and we could get the idea. Japanese like so much there culture, it was cloudy, many people came to see Kabuki performances and I think it is the same in Rwanda when it comes to dancing our traditional dances.



### **3. Comprehensive review**

Generally speaking, the 17<sup>th</sup> conference was very productive with good experiences, it was my first time visiting Japan and my first impression at the airport was the weather, the hot air. I didn't expect that, however, I like the weather indeed. Although sometimes it get a bit difficult for respiration. During the visit to cape Inbosaki, I saw the Pacific Ocean for my first time, although there were dangerous wind waves and it seemed scary, but during the journey to Cape Inbosaki, I got the opportunity to see the landscape and it is completely different from Rwandan landscape as it is made up of mountains while in Japan it is mostly planes.

Furthermore, the following days, we visited different places as I mentioned above and we did many presentations as part of the conference and I want to highlight some points from my presentation entitled '**Rwanda a peaceful and safe nation**' where I talked about Rwanda after the 1994 genocide against the Tutsi and Rwanda and the outside as well, where I mentioned how Rwanda is collaborating with other countries contributing to the development of Rwanda,

the region and the African continent in general.

In addition, devoted by Japanese hospitality I came up with the idea of learning Japanese language as many Japanese cannot speak English and I was interested in talking to them thereby there was a language barrier and I think learning Japanese will help me to strengthen the bond between Rwanda and Japan not only through JRYC but also other cooperation and interaction with Japanese.

To cut a long story short, I cannot conclude without saying that Japan is a good country, highly developed compared to Rwanda, with smart citizens and I can say that we have a lot to learn from Japan. More importantly, I want to thank everyone who contributed for the 17<sup>th</sup> conference, Japanese institutions for your support to JRYC, JRYC members Japan side for the good experience you shared with us, I can say that it will forever remain in our memory. Thank you for teaching me how to use chopsticks, for the Japanese breakfast and other Japanese culture, I believe that I have double nationality thanks to being in Japan, I am a Japanese by spirit.

## Arigato gozaimasu

第 17 回本会議を振り返って

バラヘブザ=ムレンゲラ=アイメ=ラッキー

### 1. 報告書

この振り返りでは、国立科学博物館、在日韓国人歴史資料館、歌舞伎座といった、この本会議中に訪問した場所について話します。私たちは日本でたくさんのことを学びましたので、ぜひこの報告書をじっくり読んでみて下さい。この経験を皆さんと共有したいのです。

それに加えて、どのようにして日本語を学ぶことを決心したのか、などの私の経験を「日の昇る国」日本で話したいと思っています。もちろん、ここでも私が本会議中に学んだことを話します。

### 2. 訪問地

#### ・国立科学博物館

ここでは、日本の科学の歴史について触れることができる、豊富な機会に恵まれました。今までに見たことのない動植物(特に海洋生物)の生物多様性は衝撃的でした。また、自然と共存してきた人類の歴史や恐竜の歴史について観ることもできました。これらは忘れられない経験となり、同時に科学者としての私の造詣を深めることができました。

#### ・在日韓国人歴史資料館

ここでは、日本と特に韓国との二国間関係を学びました。韓国の対日感情について、ソウルの慰安婦像を例にとり考えてみると、アフリカだけでなく、世界中に紛争の火種があるのだということを知りました。そして、我々は何よりもまず、より良い未来に向かって平和と和解を促進することによって、世界を住みやすくしていかなければならないのです。

・歌舞伎座

歌舞伎を観たのはこれが初めてで、とても感動しました。役者の衣装や化粧、ダイナミックに動く舞台には驚きました。日本語で上演されましたが、翻訳機があったので内容を理解することができました。日本人は日本の文化が好きなので、たくさんの方が歌舞伎を観に来ていて、会場は混みあっていました。伝統的なダンスとなると、ルワンダ人もこんな感じなんです。

3. 全体の振り返り

全体を通して、この第17回本会議では、たくさんのよい経験に恵まれ、大変生産的なものになりました。今回の渡航が初めての日本で、第一印象は空港の暑い空気でした。これは予想外で、時々息苦しくもありましたが、これはこれで好きです。犬吠埼にいる間、風がとても強く少し危なかったですが、人生で初めて太平洋をみることができました。また、犬吠埼に行くまでの道で、日本の地形を観察しました。ルワンダは山がちですが、日本は平らな土地が多く、大きく異なっていることに気づきました。

またその後の日程で、既述の場所も含め、様々なところに行きました。そして、本会議の一環で、いくつかプレゼンテーションをしたのですが、それをここで紹介させていただきます。「平和で安全な国ルワンダ」と題して、1994年のツチ族に対するジェノサイド後のルワンダと外国について話しました。さらに、ルワンダがどのようにして他国と協力しながら、ルワンダ、大湖地域、延いてはアフリカの国々の発展に貢献しているのか、ということについて触れました。

また、日本人のおもてなしの心に触れて、日本語を学ぶ決心をしました。私は日本人と話したいのですが、多くの日本人は英語を話せません。言語の壁があるわけです。そこで、私が日本語を話せるようになれば、日本ルワンダ学生会議だけでなく、他の交流を通して、ルワンダと日本の絆を強化することができると思ったのです。

端的に言って、日本はルワンダと比べて非常に発展した、頭のいい人が住む素晴らしい国で、私たちは日本から多くを学ばなければならない、ということをお願いしたいのです。また、この第17回本会議に協力して頂いた全ての日本の施設に感謝をすることを忘れてはいけません。日本ルワンダ学生会議の日本人メンバーの皆さん、いい経験を共有できましたね。私はこの思い出を生涯忘れることはないでしょう。箸の使い方や、日本の朝食、その他の日本の文化について教えてくれてありがとう。日本にいたおかげで、私は二重国籍者になった気分です。私は心では日本人なのです。

ありがとうございます

(日本語訳：海老原峻)



# JRYC 17<sup>TH</sup> CONFERENCE REVIEW

## 1. Own presentation

Name: Daniel Igirimbabazi



### **Contents**

From 14th to 22nd of August, 2018, I and my fellow three JRYC members attended 17th JRYC conference that was held in Tokyo, Japan. The following is the review of some of the places we visited during our itinerary in Japan. I will talk about Cape Inubosaki, Koishikawa Korakuen (Japanese Garden) and Tsukiji Honganji Temple & Tsukiji Market. Also, I will highlight my experience in Japan and then give comments generally about the places we visited as well as about my journey in Japan.

## 2. PLACES WE VISITED

### A. Tsukiji Temple and Tsukiji Market



#### **i. Tsukiji market**

Arriving at Tsukiji market, we saw a very huge crowd of Japanese and foreign tourists within the market which is a sign of its popularity. We could see very huge fish on sale by the entrance, a wide range of

Japanese wines, sake, asahi and other alcoholic drinks, non-alcoholic beverages, nuts, saldines, so many meat-related foodstuffs. We could see some stand inside the market which sell ice creams, fast foods and take away pizzas. However, most of the goods in Tsukiji market were quite expensive although they are of good quality. Since our purpose by then was not shopping but just observing and exploring Japanese Tsukiji market, we just bought some few snacks to taste and it was oishi!, we then left the market and went for lunch at a Turkish restaurant



#### **II . Tsukiji Temple**

Among the first places I was looking forward to visit on my trip to Japan was Budhist temple. I used to watch Asian movies and see Buddhism activities and get keen to know more about them. Visiting Tsukiji Honganji was a dream come true for me because I got to see most of Buddhism traditions that were unique and fascinating in person. I was impressed by how

foreigners are welcomed and made feel at home, normally before entering temples, one has to remove their shoes, but it is not the case at Tsukiji Hongwanji because their

intentions are giving people from diverse cultures a sense of feeling at home while learning and practicing Buddhism traditions

## **B. Cape Inubosaki**



It was day 1 of the visit earlier in the morning of 15<sup>th</sup> August, when we woke up earlier, took some delicious breakfast and hit the road in a car from Funabashi towards Cape Inubosaki. Along the way we could observe the amazing plantations of Japanese farmers especially crops like rice and some forests. As we started approaching the cape and along the way we could view Ocean shoreline and beach very close to the road

and it was a phenomenal experience to be able to view the Ocean for the first time in my life. We arrived at Cape Inubosaki at around 12hoo pm, we got out of the car and headed to a small tower that helps the visitors to view from above the ocean and the cities around. We then headed straight to the top of the tower where we experienced a great moment of the marvelous view of the ocean, the beach, the city and some gentle breeze from the ocean which was getting windy at times while sipping our cold drinks. We were so amazed to see such a beauty sight of Japan that is very unique and eye-catching.

## **C. Koishikawa botanical garden**



At the garden, we had this pleasure to learn the Japanese aquatic life. We saw the fantastic views

that include the artificial lake with some Japanese turtles and fish swimming within, we could see the amazing water lilies, the bridge above that artificial lake, the interesting groups of visitors with cameras presumably journalists working in nature departments because they looked very professional with their high definition cameras steady to capture every moment especially in the water. Generally the whole area is big enough and has a wide range of diverse nature components both flora and fauna

## **General Comment**

My personal experience in Japan was so amazing, I had a culture shock of using chop sticks for the first couple of days but I got better day by day. I was eager and able to learn some basic Japanese words such as KONN'CHIWA, OHAYO OGOZAIMASU, ARIGATO, SUMMIMASEN, HAI etc. The food were so delicious especially seaweed, ramen, fish and the Japanese drinks such as sake.

# **THANK YOU!**

1. 自分のプレゼンテーション  
名前：ダニエル イリギムババジ  
概要

2018年8月14日から22日まで、私と3人のJRYCのメンバーは東京で開かれた第17回JRYC本会議に参加した。日本での滞在中訪問したいくつかの場所について以下で振り返る。私は犬吠埼、日本庭園の小石川後樂園、そして築地本願寺と築地市場について紹介する。また、日本での経験を述べ、訪問地と滞在中についての感想も述べることにする。

2. 訪問地

- A. 築地本願寺と築地市場

- i 築地市場

築地市場に到着し、日本人と外国人観光客を多く目にし、その人気を目の当たりにした。入り口近くで非常に大きい魚が売られていて、そのほかにも日本のワイン、酒、朝日や他のアルコール、またノンアルコール飲料、ナッツ、鰯そして肉関係の食べ物が売られていた。アイスクリームやファストフード、テイクアウトのピザを販売している屋台もあった。しかし、質は高いものの、かなりものが高価であった。そこでの目的は買うことだけでなく日本の築地市場を観察することでもあったため、味見するために少しだけお菓子を買ひ、すごく美味しかった。そしてそこを離れ、昼食をとるためトルコ料理店に入った。

- ii 築地本願寺

日本に行くにあたって是非訪問してみたい場所の1つが、仏教寺であった。私はよくアジア映画で仏教活動を目にし、それについてより深く知りたくなった。ユニークで魅力的な仏教の伝統を実際に見ることが出来たため、築地本願寺を訪ねるのは夢のようであった。私は外国人が歓迎されアットホームな雰囲気が作られていることに感激した。通常お寺に入るときは靴を脱がなければならないが、築地本願寺では様々な文化の人に仏教伝統をアットホームな空気の中で学んでもらおうという考えから、靴は履いたままで良かったのだ。

## B. 犬吠埼

訪問1日目の8月15日の朝、早起きして美味しい朝食をいただき、船橋から車で犬吠埼へと向かった。道中では日本の農家の米などの作物や森林などが目に入った。岬に近づくと海岸線が近くに見え、人生で初めて海を見たのは素晴らしい経験であった。正午頃に犬吠埼に到着し、海や市街地を上から眺められる小さいタワーへと向かった。一番上まで上ったところからの海、ビーチ、市街地の景色は、飲み物を飲みながら時に海風は吹いていたものの、圧巻であった。日本のユニークで魅力的な景色を見られて驚いた。

## C. 小石川後楽園

庭園では、日本の水生活について学んだ。石亀や魚が泳ぐ人工池やその上に架かる橋、スイレンが見渡せ、また水の動き一つ一つを撮ろうと高精度のカメラを構える、おそらく自然分野で働くジャーナリストの集団見受けられた。全体的に多種多様な動植物にあふれる大きな庭園であった。

## 3. 感想

私の個人的な日本での滞在は本当に楽しく、最初はお箸を使わなければいけないというカルチャーショックもあったが、徐々に上達していった。「こんにちは」、「おはようございます」、「ありがとう」、「すみません」、「はい」など、基本的な日本語の言葉を学ぶことが出来た。海藻やラーメン、魚などの食や、酒などの日本の飲み物は本当に押ししかった。

ありがとうございました！

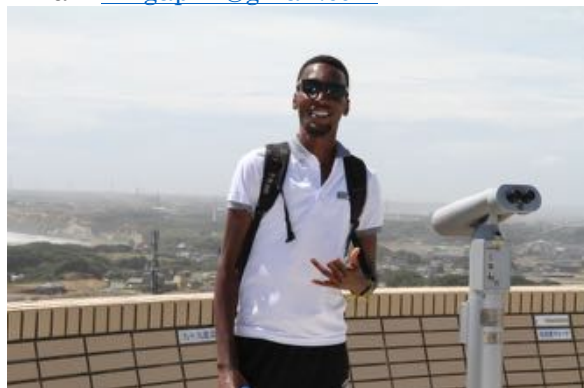
(日本語訳：後藤聡子)

# Reflection on the JRYC 17<sup>th</sup> Conference

## 1. Summary

Name: Mugisha Alain Philemon

Email: [mugaphil@gmail.com](mailto:mugaphil@gmail.com)



### **Content:**

In this document, I reflected on the JRYC 17<sup>th</sup> Conference that we attended this August 2018. I will talk about my expectations, my experience in Japan, two of the places we visited, namely Yasukuni Shrine and the visit to the Rwandan embassy in Japan, and last but not least, my presentation.

## 2. Places we visited

### **A. Yasukuni Shrine**



“I assure those of you who fought and died for your country that your names will live forever at this shrine in Musahino”, vowed Emperor Meiji when He visited Tokyo in 1874. This short quote clearly highlights the main purpose of our visit to the Yasukuni shrine. We learned that this shrine was established to commemorate and honor all people who sacrificed their precious life to protect Japan. We visited also the museum at the same place, in which we got to learn the history of Japan. We also saw the military tools used in the modern Japan, and the history of evolution in general. One thing I learned at Yasukuni is that no matter how far nations/countries may reach, we should always remember and honor everyone who helped to achieve that. Otherwise we leave no history behind.

## B. Rwandan embassy in Japan



This is actually one of the highlights of the conference. During this visit we met with H.E. the Ambassador and the First Counselor and, after making a short presentation, we talked and discussed about the core values of the cooperation. This talk was much more interactive as we expressed our framework and shared values, mission and goals. The Ambassador and the first counselor took time to share their insights on how we can develop our cooperation.

## 3. Comprehensive review

A perfect word to describe this JRYC 17<sup>th</sup> Conference is “Amazing experience”! When I was selected to attend the conference, I felt like I was going to a totally different world, different people, different culture, different society, and a different country. But I was surprised the very first moment when we arrived at the airport. I saw how everyone at the airport was willing to help. After checking out at the airport when we got outside, everyone was waiting for us, shouting Hello! You guys are amazing!

A little while after, I began feeling something strange, the temperature. In Rwanda we don't experience such kind of hot and humid climate. I struggled the first night, but in the morning everything was great! This is one of the things I was lucky to experience.

Generally, during the conference, we visited many places. Every time we arrived back home extremely exhausted, just because we had been busy going and studying the whole day. This is something that the youth back here in Rwanda need to learn; hard work and time management. This is still a major problem with most African countries, but I am convinced that if we had that habit, Africa could become a totally different continent.

I cannot forget the Japanese hospitality. I have said this many times but I will say a little bit about it again. On our second night in Japan, near our home in Chiba prefecture, there was Bon festival. We passed by and joined other people there. I was surprised by how everyone was willing to greet us, to show how to dance, etc. even if there was a language barrier (we do not speak Japanese, and many people there don't speak English) still people wanted to come and talk to us!



Now the first thing that touched me is how our Japan counterparts behaved during the conference. I already knew that summer is the busiest time for youth all over the world, some are on holidays abroad, some are on job and others are back home, so I didn't expect many JRYC members to join us. But what happened was totally different from what I thought. Everyone tried to make himself / herself available. You tried your best to be available every day and be with us. And those who have jobs, when they finished at evening they immediately joined us. Amazing people!



I prepared a presentation during the conference which I gave title "Peace Basket, the pride of Rwanda". A basket is an invaluable object in Rwandan culture as it holds a significant role in the way people live. I urge you to read through it. I left a copy of it.

Let me conclude by thanking everyone (JRYC members, their families, supporting institutions, etc) who contributed to make this JRYC 17<sup>th</sup> such an amazing experience and a conference to always remember.

We assure you that lessons learned in Japan will be a trigger to a much more improved JRYC, a JRYC that we all strive to develop and to see grow!

## Thank You Japan!

## JRYC 第 17 回本会議振り返り

### 1. 要約

この報告書では、2018 年 8 月に参加した JRYC 第 17 回本会議の振り返りをする。ここでは、私が渡航前に日本に対して抱いていた期待、実際に日本で得た経験、フィールドワークとして訪れた場所の内の 2 つの施設、そして最後に私の学生会議におけるプレゼンテーションについて述べる。

### 2. 訪問地

#### A. 靖国神社

1874 年に東京を訪れた明治天皇は「我國の為をつくせる人々の名もむさし野にとむる玉かき」と誓った。この短い引用は私たちの靖国神社への訪問の主な目的を明確にする。私たちはこの神社は日本を守るためにその貴重な命を捧げた全ての人々を祝して称える為に設立されたことを学んだ。私たちは日本の歴史を学ぶために、同じ場所に建立している博物館にも訪れた。そこで私たちは近代の日本で使われた軍用兵器と、日本の発展の過程を見ることができた。靖国神社で私が学んだことは、どれほど国が離れていようとも、つねに日本の発展に貢献した人々を称え、記憶にとどめておくべきであるということだ。さもないければ、私達は歴史を残すことができないだろう。

#### B. 在日ルワンダ大使館

これは今回の本会議の最も重要な出来事の一つである。ここで私たちは在日ルワンダ大使とその顧問に会うことができ、短いプレゼンテーションを行った後、私達は日本とルワンダの提携の中心となる価値について話し合った。この議論の中で、私達の組織概念を説明し、その価値、問題意識、達成目標を共有したことで、とても有効な対話ができる。大使と顧問は、私達がこの提携をどのように発展していけるかについての洞察を共有してくれることに多くの時間を割いてくださった。

### 3. 包括的な批評

第 17 回 JRYC 本会議を表す完璧な言葉は「素晴らしい経験」である。私が本会議に参加するように選ばれたときは、私は全く異なる世界、人々、文化、社会、国に行くような気持ちだった。しかし、空港についたまさにその瞬間に、私は驚いた。私は空港にいた人々が、快く手伝い合うのを見た。入国審査を終え到着ロビーに出ると、皆が私たちを「ようこそ！よく来たね！」と言いながら待っていてくれた。少し後に、何か変な感じがし始めた。気温だ。ルワンダでは日本のような気温と湿度を経験することはない。最初の夜は苦勞をしたが、朝にはすべてが素晴らしかった。これは、私が経験してとても幸運だったと思うことの一つである。

普通、本会議の間、私たちは多くの施設を訪問する。一日中移動し学び続けることで、毎回私たちは非常に疲れた状態で滞在先に到着する。「勤勉と時間管理」これはルワンダの若者が学ばなければならないことである。これはアフリカのおおよその国で未だ問題であるが、もし私たちがこの習慣を得ることができれば、アフリカは全く異なる大陸になること



ができると確信した。

日本人のもてなしは忘れることはできない。すでに何回も言ったが、さらにもう少しだけ言いたい。二日目の夜で、千葉県にある私達の滞在先の近くで、盆祭りが催されていた。私たちはそこで地元の人々に加わった。その人々が快く私達に挨拶してくれたり、踊りを教えてくれたりすることに驚いた。私たちは日本語を話すことができず、ほとんどの人は英語を話すことができないという言語の壁はありながら、喜んで私達に話しかけてきてくれるのである。

私が感動した最初のことは、JRYC の日本人メンバーの本会議に対する姿勢だった。世界中の若者にとって夏が一番忙しいことはすでに知っていた。海外に行く人や、仕事がある人、実家に帰っている人がいる。だから、こんなにも多くの日本人メンバーが参加してくれることは期待していなかった。しかし、実際に起こったことは完全に私の予想と違った。皆が予定を空けるよう努力してくれた。仕事がある人も、終わった後にすぐかけつけてくれた。

本会議の間に「ピースバスケット；ルワンダの誇り」という私のプレゼンテーションを行った。これは人々の暮らし方の中で重要な役割を果たすことから、ルワンダの文化にとって非常に貴重なバスケットである。これについてのコピーを残したので、ぜひ多くの人に読んでほしい。

JRYC 第 17 回本会議を素晴らしく、忘れられない経験にしてくれた JRYC メンバー、彼らの家族、私達を支援してくださる団体の方々に感謝しつつ、締めくくりたい。私たちが日本で学んだことは、JRYC をより良くしていくためのきっかけになるということを私は保証する。私たちは皆発展し成長するために努力をすることを惜しまない。

ありがとう日本！

(日本語訳：眞鍋悠眸子)

## **Review of the 17<sup>th</sup> conference of JRYC**

Topic: Evolution of dating and marriage in Rwandan culture

**Presenter:** AYINYERETSE ISHIMWE Peace Diane

### **Contents**

This topic was talking about the way Rwandan people used to date and choosing their partner (Spouse).It shows the strategies that were being used during the pre-colonial, during colonialism and today period and also shows the advantages and disadvantages of each.

### **Discussion**

We have discussed on the situation during pre-colonial period where Rwandan Parents were supposed to arrange the marriage of their children without involving children (boy and girl) which means couples met for the first time on their marriage.

We talked also on the colonialism period where both boys and girls were allowed to choose their partner but before they get married, they might be an agreement of Parents.

Therefore we saw that today's situation is totally different from others because there is no agreement of Parents during marriages and some People use to date online which result in the large number of divorces.

We have discussed on which situation is preferable and why it is preferable. Here everyone had the time to tell his/her opinion.

### Places we visited

**Date of visit:** 19/08/2018

**Name of the place:** TEPIA Advanced Technology Gallery



It was on Sunday in the afternoon where we visited the TEPIA Advanced Technology Gallery. They welcomed us and give us the book that contain the explanation of each project in English and that is where we started making the tour inside TEPIA and it was allowed to use the objects inside TEPIA. TEPIA does research on the trend of advanced technology such as machinery, information technology, new material, biotechnology, energy.

Some of the project we found in TEPIA are:

- **The CarriRo Logistics support robots:** which help in transportation of items. it is an automatic transport. for example in the store, we usually push the carts when we are choosing products to buy but it is different when you use the CarriRo robots because it follows you wherever you go without pushing. You only need to press a button so that the carts follows you and when you release the button it stops.
- **Manga generator K.A.I** which enable a person to Jump into the two-dimensional world of manga, where your image is taken by the camera and the shot is converted so that it can be incorporated in a manga.
- **LIMEX sheet** which is a material made by combining limestone and polyolefin and is used as a replacement for traditional Paper in order to reduces environmental problems such as the destruction of forest or water shortages. This LIMEX sheet also resist the water and is durable.

There were many other projects that we have seen in there.

This visit to the : TEPIA Advanced Technology Gallery was an exciting and learning experience for us .It opened our mind to the future world of technology.

**Date of visit:** 18/08/2018

**Name of the place:** Sensoji Temple

We have also visited the Sensoji temple, a place where you find many tourists as it was the weekend there were a large number of People.



It is also a place to see traditional Japanese culture around Tokyo. We went inside and our Japanese colleagues started to explain more on the temple the history of the temple and told us about the two Gods that are on the main gate (God of thunder & God of winds).

Before reaching the temple, we passed in the street which is surrounded by shops where you can find souvenirs and that place is called "Nakamise-dori". Therefore, in front of the main hall of the temple, we saw many people covering themselves with smoke. The smoke they are covering themselves with on their head, is believed to chase away bad spirit and make themselves smarter and clean. After being cleaned we went inside the temple and pray.

Back outside of the temple on the left-side there was another place which was full of people who were being told their fortune. To know your fortune, you put a 100¥ in the fortune teller and shake a little container that is full of sticks and pick on stick to see your fortune. Some pick the good fortune, others pick bad fortune and in order to chase away those bad fortune you tie the paper on a branch so that those bad fortune can become good fortune.

## Comprehensive review

The 17<sup>th</sup> conference was an exciting and a big Learning experience where we learned a lot on Japanese culture, we learned the basics of Japanese Language and we really appreciate the way Japanese people keep their culture which is a good example.

We enjoyed the Japanese food like soba noodles, Tempura, Okonomiaki, etc and drinks like Tea, Sake and beers.

We enjoyed not only Japanese food but also the city which is very clean and the organization of Japanese people.

It was our first time to experience the hot weather, going in the train, buying drinks using vending machines and many other things....

We do appreciate the kindness of Japanese and we thank Ryo's Family for hosting us and Yumeko. We hope to be in Japan again and we also hope to welcome Japanese people in our country of thousand hills.

Written by: Peace Diane AYINYERETSE ISHIMWE

### **JRYC 第 17 回本会議感想**

トピック：ルワンダ文化におけるデートと結婚の変遷

プレゼンター：ピース

#### **概要**

このトピックはルワンダの人がどのようにデートし、パートナーを選んできたのかを題材にしている。植民地前、植民地時代、そして現代に使われている戦略を示し、それぞれの長所と短所を提示する。

#### **議論**

植民地前のルワンダでは、親が子どもを含めずに子どもたちの結婚を手配するため、カップルは結婚式の日に初めてお互いと顔を合わせる事となっていて。この状況について話し合った。また、自分のパートナーは選んでも良いが、結婚する前に親の承諾が必要であった植民地時代のルワンダについても議論した。

よって、現代の状況はこれらとは全く異なることが分かった。というのも、現代では結婚に関して親の許可は必要なく、ネット上でパートナーを見つける人もいて、それが多くの離婚を発生させているからである。どの状況が最も好ましく、またその理由について話し合った。ここでは全員が自分の意見を述べる機会があった。

## 訪問地

日付：2018年8月19日

訪問場所：TEPIA 先端技術館

日曜の午後、私たちは TEPIA 先端技術館を訪問した。我々は歓迎され、それぞれのプロジェクトの英語での説明が掲載されているブックレットをもらった。ここから私たちは TEPIA の中を巡り、中のものを使ってみた。

TEPIA は機械、情報技術、新素材、バイオテクノロジーやエネルギーのような高度技術の傾向についての研究を行っている。TEPIA で見つけたプロジェクトのいくつかを紹介する。

・物流支援ロボット「CarriRo」は、自動運輸を用いて、物流において役立つ。例えば店の中で買い物するときはカートを使うが、CarriRo は行くところに付いてくるため、押す必要がない。ボタン一つでカートが自分の後ろに付いてくるように操作できるのだ。

・漫画ジェネレーター・カイは、カメラで自分の写真を撮ることでそれが漫画の中に入り込めるよう二次元に変換することを可能にする。これによって漫画の二次元の咳兄飛び込むことが出来るのだ。

・ライメックスシートは、石灰石とポリオレフィンを混ぜることで作られる素材で、森林伐採や水不足などの環境問題を削減するために紙を代替することが期待される。このライメックスシートは撥水性もあり、耐久性に優れている。

他にも多くのプロジェクトを見ることが出来た。

今回の TEPIA 先端技術館訪問は、私たちにとって楽しく学べる経験であった。技術の未来へと思いをはせることが出来た。

日付：2018年8月18日

訪問場所：浅草寺

私たちは浅草寺も訪れ、週末だったこともあり多くの観光客で賑わっていた。そこは東京周辺の日本の文化を見られる場所であり、中に入ったら日本人の仲間が浅草寺の歴史について教えてくれ、門に立つ二体の神様について説明してくれた（雷神と風神）。

お寺に着く前に私たちは「仲見世通り」と呼ばれる通りを行き、多くの店がたち並んでいた。また、寺の本堂の前では、多くの人が煙を浴びていた。手で頭に被っていた煙は悪霊を追い払い、より賢く清潔にしてくれると言う。その後中へ入り、手を合わせた。

再び外に出ると右手には占いを受けている人が多くいた。その占いを知るには 100 円を投じ、おみくじ入れから一本おみくじを引く。吉と出た人もいれば凶と出た人もいて、悪運を追い払うためには、その紙を枝にくくりつけることで、幸運へと変わっていくと言われている。

## 総括

第17回本会議では日本の文化や日本語の基礎を学べた良い経験ができ、日本人が文化を大事にする姿勢に感謝し、見本となった。また、そば、天ぷら、お好み焼きやお茶、酒、ビールなど、日本の食も楽しめた。日本の食だけでなく、きれいな街や日本人の清潔さも感じる事が出来た。また、暑い気候や電車に乗ること、自動販売機を利用したりなど、多くの新しい経験ができた。

日本人の優しさに感謝すると共に、峻のご家族にはホストファミリーになっていただき、またゆめこにも感謝している。また日本に行きたいと思うと同時に、私たちの千の丘の国で日本人を歓迎できることを願う。

文責：ピース

(日本語訳：後藤聡子)

## 後援・助成団体様・ご協力いただいた方々

### SUPPORTERS

#### 後援（順不同）

- 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）
- アフリカ平和再建委員会（ARC）様
- 在日本ルワンダ共和国大使館様

#### 助成金団体様（順不同）

- 双日国際交流財源様
- 三菱UFJ国際財団様

#### ご協力いただいた団体・個人の皆様（順不同）

- ベネチア・セブダンディ在日本ルワンダ日本大使
- エリック・ルバイター等参事官
- 在日本ルワンダ大使館の皆様
- 犬吠埼展望台博物館さま
- 靖国神社遊就館さま
- 在日本韓国人歴史資料館さま
- 小石川後樂園さま
- 国立科学博物館さま
- TEPIA 先端科学技術館さま
- 浅草寺さま
- 築地市場さま
- 築地本願寺さま
- 歌舞伎座さま



日本ルワンダ学生会議 第17回本会議活動報告書

2018年10月14日 第初版発行

発行先 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター (WAVOC)

日本ルワンダ学生会議

連絡先 [japan.rwanda@gmail.com](mailto:japan.rwanda@gmail.com)